

道建設部と札幌協が意見交換会

### 技能士活用の対象拡大検討

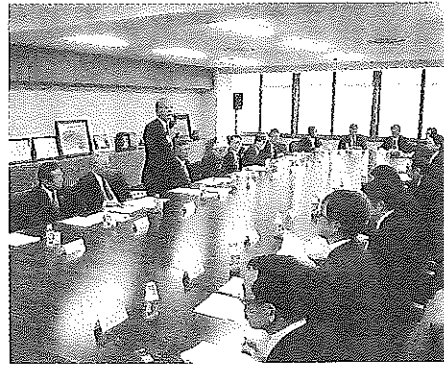
#### 施工パッケージで設計変更適切に

道建設部は一月三十日、道建設会館で一般社団法人札幌建設業協会(岩田圭剛会長)との意見交換会を開催した。写真1。協会側は、技能士活用の評価に関

し対象職種拡大を要望し、建設部も検討していく考えを示した。施工パッケージ型積算方式については、協会が適切な設計変更への対応を求めた。

意見交換会には、道建設部から岡田恭一技監、札幌建管の中村雅彦副局長ら六人、札幌協からは岩田会長をはじめ役員ら二十一人が出席した。

冒頭、岡田技監があいさ



つ。地域の維持管理や防災などの日ごろの活動に謝意を示した上で、「業界における課題を解決するため、きたんのない意見を」と述べた。岩田会長は「予算措

置などによって、業界としては厳しい状況が続くが、きょうは有意義な意見交換会になれば」と期待を寄せた。

長・再雇用も経営上の問題となっていることについて議論。また、協会側はBCP策定を推奨し、策定企業を評価する制度の導入を検討するよう求めた。

技能士活用の評価に関しては、現行では四職種となっている評価対象を拡大するよう要望。建設部側は、四職種以外にも多くの工事で活用している職種があることを紹介しながら、前向きに検討していく考えを示した。

施工パッケージ型積算方式については協会側が、現場との積算に乖離(かいり)が生じること懸念を示しながら、設計変更に適切に対応することを求めた。

# BCP策定の評価要請

## 札幌建協と道建設部 意見交換会

札幌建設業協会と道建設部は30日、北海道建設会館で意見交換会を開いた。道側は2015・16

年度競争入札参加資格審査の技術・社会点評価改正内容や、総合評価方式ガイドライン改定案などを説明。建協側は技術・社会点でBCP(事業継続計画)策定企業を評価するよう求めた。

同部の岡田恭一技監は14年を振り返り、「災害の多い1年だった。維持と防災を担う地域の建設業者に期待している」と呼び掛けた。

岩田圭剛会長は、北海道開発事業費が15年度予算案で微増になった一方で14年度補正予算案は減ったことなどから「新年度の見通しが立たない」と主張。改正公共工事業品質確保促進法(品確法)に盛り込まれた発注者の責務に基づく取り組みに

は期待感を示した。同建協は、技術・社会点の評価項目に新設された担い手の確保について評価する人数や職種を尋ね、BCP策定企業の評価も加えるよう要望。同部は国の動向を見て判断すると答えた。

また同部は、過去5年間の工事実績を踏まえ技能士活用評価を見直すことにも言及。造園、コンクリート圧送施工、路面



総合評価方式ガイドライン見直しなども議論した

標示施工、塗装の技能士4職種について、総合評価方式で加点した場合は施工成績評定時に評価しないとする取り扱いを改め、15年度からはどちらでも評価する方向で検討している」と述べたほか、

今後とも活用状況を調査した上で対象職種を拡大する意向を伝えた。改正品確法に基づく取り組みは16年度入札分からの適用を目指し、北海道建設業審議会に設けた専門部会で、運用指針に盛り込んだ項目の中から道が何を導入するかを今後議論すると説明した。